

徳永直の会会報

第58号

「金釘坂」を残そう

徳永直の会会長 高木陽助

悪夢のような東日本巨大大地震が発生した。三月十一日の午後二時過ぎのことである。対岸の火災として見ていたスマトラ沖巨大地震による大津波の映像と、東日本の大津波が重なった。まさか、何で、信じがたい映像が次々と流されてくる。数年前、宇城市不知火町松合地区が津波に襲われ、甚大な被害を受けた。入り江で狭くなった海岸には、沖の何倍もの高さの津波が押し寄せる。少々の堤防などいとも簡単に破壊し、飲み尽くす。松合の津波でその恐ろしさのある程度は分かったつもりでいたが、東日本の海岸一帯を襲った津波は、想像をはるかに超えた巨大な大津波であった。真つ黒な海が、悪魔のような大きな手を広げ、海岸、市街地、更に内陸の奥地まで瞬時に飲み込んでしまった。残ったのは無惨ながれきの山。あの中で生活していた人たちは……。犬や猫や家畜たちは……。想像だに恐ろしい世界である。そして、それに追いつき追いつけないような福島原



総会風景1

発危機の問題。この世の事とも思えないような二重苦、三重苦の災難に襲われている。まさに不条理の世界。更に混迷を深めているのが、三ヶ月経つても被災者の救済に本腰を入れていない永田町である。被災者の方々には心からお見舞いを申し上げます。

徳永直は二十四歳の九月、関東大震災に襲われている。津田孝氏の年譜によると、前年に上京していた直は、この頃出版従業員組合の先輩である青野季吉、金子洋文などに小説を読んでもらっていた。関東大震災のため職場の建物が崩壊し、多数の死傷者を出したが、その犠牲者に対する経営者側の仕打ちに抗議し、ストライキを計画して職場の代表者たちが小石川植物園に集まったが、憲兵隊におそわれてやめる、とある。

いつの時代も経営者側はわが身可愛さばかりで、従業員のことは考えていない。命がけで作業に当たっているのは福島の実地の人たちである。東電は、許容範囲を超えて放射能を被曝した作業員を働かせていた。東電、保安要員、政府の役人等に対する怒りは我々ですら収まらない。現地で家族のため、地域のため、日本のために使命感を持って、命がけで働いている作業員の事を、経営者側はどれほど理解し、配慮しているのか。ストライキ？でもって抗議したいところである。



総会風景2

「金釘坂を残そう」高木陽助…… P 1

二〇一一年度「徳永直の会」総会報告・読書会の案内…… P 2

徳永直文学散歩③『黒い輪』…… P 5

二〇一〇年度「孟宗忌」・会費納入のお願い・お知らせ・編集後記…… P 6

徳永直は明日の生活をも危ぶまれる貧農の長男として生まれ、親兄弟も含めた徳永家の生活を支えるために、竹細工や荷馬車の手伝い、こんにやく売りなど幼いときから労働に携わってきた。だからこそよけい底辺の労働者として、大震災で被災した犠牲者に対する思いも深かったのかも知れない。

先日の総会の席で、ある会員の方から、北部の川上小学校近くに「金釘坂」の標識を立てよう、という提案があった。今大幅に道路の拡張整備等がなされて、徳永直の小説に出てくる「金釘坂」は、それほど難所とは思われない。徳永小説の原点とも言うべき『馬』の中に、「私達荷馬を挽く仲に、最も怖れられてゐる難所の金釘にかゝつて来た」とある。記憶は薄れ、忘れ去られる。忘れてならない記憶は、記録にして残さなければならぬ。何とか徳永直の原点「金釘坂」を残したいものである。

二〇二一年（平成23年）年度 徳永直の会総会

「徳永直の会」の総会が、去る五月二十一日（土）午後二時半から、崇城大学市民ホール 小会議室（4号室）にて開催されました。

1 二〇一〇年度 事業報告

四月二十四日（土）

「徳永直の会」総会

於：崇城大学市民ホール小会議室

九名参加

- ①講演・講師 中村青史先生
演題…「熊本を舞台にした作品」について
- ②議題…二〇〇九年度事業報告・会計報告
二〇一〇年度事業計画案・予算案・

役員改選・その他

四月二十四日（土）

『徳永直文学選集』熊日出版文化賞受賞を祝う会

於：メルパルク熊本 二十九名参加

五月六日（日）

事務局会議 於：南風堂

- ①今後の事業や作業日程の打ち合わせ
- ②読書感想文募集のための小冊子について

①「徳永直作品集Ⅰ」印刷依頼

熊本出版文化会館へ 1000部

七月九日（金）

①熊本市内の小・中・高校へ「徳永直作品集Ⅰ」

を添え「読書感想文募集」の依頼文発送

・、募集要項を発送。

七月二十四日（土）午後二時より 於：県立図書館

①第一回「徳永直の会」読書会

『最初の記憶』を読む 四名参加

*和田崇氏が京都から参加。輪読・討論。

八月八日（日）午後 於：菊陽町図書館 三名参加

「少女雑誌にみる郷土ゆかりの作家たち」展見学。

*「小さい記録」が「少女の友」に掲載。

八月 河原畑近代文学館館長退任。

十月 真和高校の生徒から感想文数点応募。

小・中学校からは応募なし。

十一月 徳永直の作品「小さい記録」の冊子原稿作成
 十二月 「徳永直の会会報」第57号原稿作成。
 『小さい記録』作成。
 一月 「徳永直の会会報」第57号完成。
 徳永直作品集Ⅱ「小さい記録」を第34回
 「孟宗忌」の案内等と共に会員に発送。
 二月十三日(日) 第34回「孟宗忌」
 三月 今年度の整理、来年度の準備。

2 二〇一一年度 事業計画案

五月二十一日(土) 「徳永直の会」総会
 於… 崇城大学市民ホール小会議室
 ①議題…二〇一〇年度事業報告・会計報告
 二〇一一年度事業計画案・予算案・
 役員改選・その他
 ②講演…講師 高木陽助会長
 演題…「徳永直の初期作品について」
 七月 「会報」58号(総会報告等)発行
 第一回読書会
 読書感想文募集(小・中・高生、一般対象)
 九月 第二回読書会
 十一月 読書感想文応募締切
 十二月 読書感想文 選考
 「会報」59号 原稿作成
 一月(中旬)「会報」59号 発行
 二月十二日(日) 第59回 孟宗忌
 三月 整理・準備

3 2010年度決算			
収 入		支 出	
繰越金	95,312	事務関連費	2,065
会費	90,000	通信関連費	13,810
祝賀会残金	79,980	総会関連費	1,768
利子	46	碑前祭関連費	17,114
寄付	24,000	会報関連費	16,800
(津田氏、金野氏、高木氏)		読書感想文関連	88,204
合計	289,338	合計	139,761
積立金	100,000	繰越金	149,577

以上の通り相違ありません。

平成23年5月15日

会計 荒木 恵

4 2011年度予算案			
収 入		支 出	
繰越金	149,577	事務関連費	2,000
会費	90,000	通信関連費	15,000
雑収入	423	総会関連費	2,000
		碑前祭関連費	20,000
		会報関連費	20,000
		読書感想文関連費	30,000
		くまもと文化振興会入会金	5,000
		くまもと文化振興会年会費	20,000
		HP 関連費	15,000
		予備費	11,000
		積み立て	100,000
合計	240,000	合計	240,000
積立金	100,000		

会長	高木陽助 (真和高校非常勤講師)
事務局長	緒方宏章 (熊本西高校教諭)
広報	永田満徳 (鹿本商工高校教諭)
会計	荒木 恵 (第一高校教諭)
会計監査	山村淳子 (上天草高校教諭)
	田中耕二 (東稜高校教諭)
評議委員	鍛田吉豊 (『へれそっそ』代表)
	廣島 正 (熊本出版文化会館代表取締役)
	寺澤孝子 (暮らしのわかば会代表)
顧問	中村青史 (前会長・元熊本大学教授)

6 特定非営利活動 (NPO) 法人

「くまもと文化振興会」加入決定

昨年度特定非営利活動法人「くまもと文化振興会」が設立されました。熊本で文化、芸術活動を行なう団体及び個人の活動の支援を行ない、熊本の文化、芸術の振興に寄与することを目的としています。「徳永直の会」も参加すること、他の団体や個人と連携し共に発展していきたいと思います。

なお、「くまもと文化振興会」の理事長は、中村青史先生です。また、事務局は、「さろん・ど漱雲」に置かれています。

7 「徳永直の会」HP開設へ

念願のHPを開設することとなりました。会員で京都在住の和田崇氏から開設を申し出ていただきました。若い会員獲得の一助になればと考えています。開設いたしましたらご連絡いたしますので、是非一度開いてみてください。

期 日 七月三〇日(土) 午後二時から午後四時

場 所 「さろん・ど漱雲」

テキスト 『馬』・『最初の記憶』

徳永直文学散歩③

緒方 宏章

『黒い輪』

阿蘇外輪山の谷底にある発電所の見習工になって数ヶ月経ち、秋になった。

「晴れてるんだな？」

谷間の方から五本の大鉄管の列に沿うた岩のあいだの細道をのぼりながら小川五平は中岳の方をみた。截り断った崖の熊笹の上に阿蘇五岳が起伏して、噴煙は白っぽくたゆたいながら、そのてっぺんは棒のように細くなり、吸いあげられたように鼠色の雲とつらなっていた。根子岳の頂きも晴れていて朝暾に照りかえっているが、オレンジ色がかったそこらの空間にいっぱいに黒い輪が転々と浮動しているのだった。



黒川第1発電所

近頃、五平には世

の中がいつも夕暮れのようにみえていて、それが朝だつたり、天気のいい正午どきだつたりするのに気がついておどろくことがあった。五平は荷物をもっていない方の手で手術した方の右眼をこすつてみたが、傷ついている角膜にふれると痛んで左眼まで涙がでてきた。空を仰いだまま眼をうごかすとちらかった黒い輪はそれにつれて浮動し、まつ毛のさきでくつついたり離れたり、大きいのが小さいのやが空いっぱいひろがってしまうのだった。

「おーら、どいた、どいた」

頭の上から声より早く弾んだ小石が二つ三つころがり落ちてきて、慌ててさけたとたん裸の銅線まきの大きな輪が、ロープと人間をひきずりながらころがってきて岩角にぶつかった。

「お早うございます」

荒らっぽい外線の連中だった。外国から新しい発電機が入ってきて試運転のために谷間の流れの中に氷抵抗の櫓を作っていた。しかし内線の新参見習である。五平に挨拶をかえすものはなかった。



南阿蘇鉄道の鉄橋と鉄管

二〇一〇年度「孟宗忌」

二月十三日(日)

碑前祭・徳永直文学碑前
講演会・熊本近代文学館



碑前祭風景2



碑前祭風景1



和田崇氏の講演会風景2



和田崇氏の講演風景1

会費納入のお願い

平成二十三年度の「徳永直の会」の年会費の納入をお願いします。同封の振替用紙にて、郵便局でお振り込みください。すでに納入済みの方は、振り込まれなくて構いません。

年会費 二千元

口座記号番号 017101191121371

加入者名 徳永直の会

お知らせ

立命館大学大学院文学研究科人文学専攻日本文学専修に在籍されている和田崇氏が、来る八月二十三日(火)に、立命館大学で開催される「解釈学会」の全国大会で発表されます。論題は、「徳永直『八年制』論―教育制度をめぐる庶民的批判」です。

編集後記

東日本大震災という未曾有の経験を私たちはしました。私たちに何ができるのかと考える毎日です。

被害に遭われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、会報の出来はいかがでしょう。会員の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

また、新会員のご紹介もよろしくお願いいたします。